

明治近代化に生かされた二宮尊徳 ～近現代の源流としての報徳思想～

二宮尊徳の思想は、明治時代における起業家たちへ多大な影響を与えました。
二宮尊徳が日本の近代化と戦後の時代へどう繋がっているのか、をエッセイスト深野彰氏が
4回講座で解説します。



報徳神社の金次郎像



壹圓券に描かれた二宮尊徳

◆ 講座：4回連続講座

9月14日～11月30日《4回、全土曜日》13：30～15：30（受付：13:00より）

第1回（9月14日） 二宮尊徳の壹圓券

第2回（10月12日） 金次郎の愛読書「大學」とは

第3回（11月9日） 明治人が見た二宮尊徳

第4回（11月30日） 遠州の起業家・鈴木藤三郎

（講座概要は裏面）

◆ 講師：深野 彰氏（エッセイスト、経歴は裏面）

◆ 会場：生涯学習センターけやき 第2会議室

◆ 費用：3,500円（全4回分、1回だけの場合は1,000円）

◆ 定員：50名（申込先着順）

（申込方法）

◇ 申込先・問合先 NPO法人小田原市生涯学習推進員の会（生涯学習センター内）

◇ 電話受付：0465-33-1890（平日9時～16時、毎月第4月曜日除く）

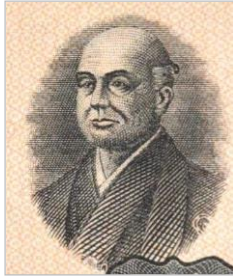
又は、キャンパスおだわらホームページから <http://www.campusodawara.jp/kouza/>

■ 主催：NPO法人小田原市生涯学習推進員の会

講座の概要

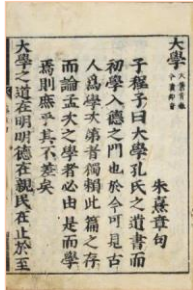
第1回 二宮尊徳の壹圓券

9月14日（土）



薪を背負った金次郎の姿は誰でも知っています。70年前に1円紙幣の肖像として二宮尊徳が採用され、大人の二宮尊徳の顔が全国に知られました。その壹圓券は敗戦の翌年昭和21年3月に発行されました。GHQ管理下で、なぜ紙幣肖像として尊徳が採用されたのか、GHQはいったい何を考えていたのか？ 二宮尊徳の壹圓券の謎を探ります。

第2回 金次郎の愛読書「大學」とは 10月12日（土）



薪(まき)を背負って歩きながら本を読む二宮金次郎像は、各地の小学校校庭に立っていますが、金次郎はいったい何を読んでいるのでしょうか。小田原駅構内の金次郎像が読む本には、「一家仁一国興仁」と彫られています。これは「大學」の一節です。「大學」には、何が書かれているのでしょうか？ 「大學」の紹介と報徳思想の関係を探ります。

第3回 明治人が見た二宮尊徳

11月9日（土）



幸田露伴著「二宮尊徳翁」挿絵より

二宮尊徳の「報徳思想」は、弟子がまとめた「報徳記」や「二宮翁夜話」によって、江戸時代よりも明治時代になってから広く国民へ知られるようになりました。それでは明治時代の人々は、報徳思想をどのように受け止めていたのでしょうか？ 各界著名人が書いた二宮尊徳に関する著書を紐解いて、明治の人々の報徳思想のとらえ方を探ります。

第4回 遠州の起業家・鈴木藤三郎

11月30日（土）



森町「鈴木藤三郎記念館」にて撮影

明治時代の日本で水砂糖を初めて開発したのは、静岡県森町の鈴木藤三郎でした。藤三郎は開発に苦心惨憺しましたが、そのとき藤三郎が頼ったのが報徳仕法でした。なぜ遠州で報徳運動が盛んになったのか、藤三郎は報徳仕法をどのように開発に活用したのでしょうか？ 森町の報徳の歴史と鈴木藤三郎の起業家精神を探ります。

講師プロフィール 深野 彰氏



1974年に早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了（生産工学専修）。生産システム設計、中国・蘇州駐在等の会社勤務後、現在エッセイスト。中国文化史、小田原文化史などをテーマに執筆。著書「蘇州通信」（2010年、中国・蘇州文化に関するエッセイ）、「ういろうにみる小田原」（2016年、「ういろう」の歴史と小田原文化史）。小田原市社会教育委員、小田原市文化事業推進委員会監事。小田原史談会会員。1949年生まれ。